

ホテル評論家 瀧澤信秋の 「イケてる」レジャーホテル探訪

ラグジュアリーホテルからビジネスホテル、カプセルホテル、そしてレジャーホテルと、さまざまな宿泊空間を利用者の視点から「体感」するホテル評論家・瀧澤信秋氏。同氏が実際に利用者として体感した最新のレジャーホテルの「感動」空間、「イチ押し」サービスをレポートする。



ホテル評論家
瀧澤 信秋氏

PROFILE

日本で数少ない宿泊者・利用者目線のホテル評論家として、テレビやラジオへの出演、雑誌・新聞連載など、多方面で活躍。著書に「365日365ホテル上」(マガジンハウス)、「ホテルに騙されるな!プロが教える絶対失敗しない選び方」(光文社新書)、「ホテル評論家が自腹で泊まる!最強のホテル100」(イースト・プレス)、「辛口評論家、星野リゾートへ泊まってみた」(光文社新書)など <https://sites.google.com/view/hoteltakizawa/>

HOTEL U's香櫨園 (兵庫県西宮市)

宿泊業界全体で高まるホテル需要 そしてレジャーホテルの存在感

本連載の取材施設は完全なる筆者の独断で出向いたなかから掲載している。関係者から推薦されたこともなく何らかのメディア情報を辿って取材に出向いたこともない。そうした点で今回はイレギュラーとなった。

本誌で興味深い連載を見つけた。『ゼロからはじめる「予約獲得」戦略』というテーマの記事で、レジャーホテルと親和性が低いとされてきた予約システムや宿泊予約サイトの相関について詳述されていた。従前からレジャーホテルと一般ホテルのボーダレス化も評論テーマのひとつにしてきた筆者にとって大変興味深い内容である。

インタビュー対象であった、予約システムをベースにした集客戦略で、収益性の高い安定集客を実現しているという若き人物に興味を抱いた。テクニカルな部分など集客戦略の内容は誌面を参照いただくとして、そのような方の運営するホテルはいったいどういったホテルなのだろうか?と評論家として純粋な好奇心を抱き西宮市へ取材に出向いた。

まず驚いたのがその立地。阪神電車・香櫨園駅より徒歩約30秒、大都市部の例外を除きこれほど駅から至近の立地というのは希有だ。車でも便利。阪神高速3号神戸線・芦屋出口より車で約4分、幹線道路沿いで一目瞭然だ。

暖炉のオブジェが印象的なロビースペースはスタイリッシュ、オープンフロントと共にカウンター上にはバスソルトサービスが並んでいる。チェックアウト時刻の表示がシンプルな時計の図、簡単なようでなかなかできないデザインである。

客室フロアへエレベーターで上がり降りると気づいたのがエレベータードアに“↓DOWN”のアイコン。上ってきたエレベーターであり決して下り専用ではないが、チェックアウトするゲストへわかりやすく優しい。こ

れまた簡単なようでなかなかできないデザインだ。

客室で楽しげなパウチを見つけた。“ピヨじろうを探せ!香櫨園びんびん物語”と大きく書かれたもので、すなわちウォーリーを探せのビヨコ版だ。部屋でピヨじろうを発見しフロントへ持って行くと次回に使える割引チケットを進呈、さらに“オカン”がいたら2枚進呈という。ゲストにも好評というが何よりこうした仕掛けをスタッフが愉しんでいるとのこと。

冒頭に話しは戻るが、かようなホテルだけにOTA経由の予約流入が7~8割と突出しており、阪神甲子園球場最寄り駅から各駅停車で3駅10分、そして駅近という好条件もあいまって、カップル客と観光客は5:5の割合という。観光といえばテレビには周辺観光案内も映し出される。一瞬よぎったのが画像使用の権利問題だ。観光スポットというある種パブリックな画像がレジャーホテルで使用できるのかということだ。ところがこれらも見事許諾を得てクリアしている。4号ではないとはいえレジャーホテルという見方をすれば注目すべき取組みだ。

コロナ禍前の第一次インバウンド活況(と筆者は定義づけている)時、一般ホテルへのコンバージョンも散見されたようにレジャーホテルは宿泊業界において存在感を示しつつあった。そしていまの第二次インバウンド活況。レジャーホテルはこの好機に収益の最大化のため何ができてきているのだろうか。

そうそうホテルに関するサイトを見ていたらHOTEL U's香櫨園がアパ直(アパホテル宿泊予約サイト)に掲載されていた。この進化系レジャーホテルの門戸は確かにオープンだ。

HOTEL U's香櫨園

兵庫県西宮市川西町1-8 <https://us-kouroen.com>

